

科目名	アフリカ開発論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修 ■選択	
				□必修 □選択	
英文表記	African Development	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	さかもと こういち	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	坂元 浩一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	アフリカ経済とその開発について、基本構造と現状を理解する。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. アフリカと日本やフランスとの間の国際経済取引の全体と主な活動（貿易と投資）を理解できるようになります。援助や経済協力についても理解できるようになります。 2. アフリカ全体の経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 関連ニュースをより理解できるようになります。				
授業概要	本講義は、アフリカを対象として、その経済構造と日本などとの経済関係を学びながら、アフリカの経済、開発、援助を論じます。いわゆるブラック・アフリカに対応するサハラ以南アフリカを対象としますが、アラブ圏の北部アフリカも少し扱います。経済を中心としますが、人口、教育、政治など経済外の条件も扱います。 講義方法として、アフリカは未知の大陸であり、日本との経済関係は強くはないです。日本に加えて、フランスとの関係も取り上げながら進めます。フランスについては、2014年に教員（坂元）が白水社の『ふらんす』誌に12回連載した内容を使います。テーマは、「フランスと旧仏領アフリカの経済関係」でした。 教員はこれまでアフリカ全域の主要国、19か国を38回訪問したことがあります。国連専門家として、青年海外協力隊の実績が最もあるマラウイに4年間滞在しました。その他の例としては、東アフリカのサファリ王国ケニア、南部アフリカの「インド洋の貴婦人」モーリシャス、西アフリカの「象牙の奇跡」を実現した Ivory Coast/Côte d’Ivoire などを取り上げます。パリにおけるアフリカ調査を含めた現地経験も紹介します。				
授業計画					
第1回	イントロダクション（主な内容、アプローチ）				
第2回	アフリカと世界				
第3回	アフリカと日本				
第4回	アフリカ経済の基本構造				
第5回	アフリカ経済の経済外の条件				
第6回	経済開発論の理論と政策				
第7回	援助を含む経済協力の理論と政策				
第8回	アフリカと日本の経済関係				
第9回	アフリカと日本の経済協力				
第10回	アフリカとフランスの経済関係				
第11回	アフリカとフランスの経済協力				
第12回	事例： 東部アフリカ				
第13回	事例： 南部アフリカ				
第14回	事例： 西部・中部アフリカ				

第 15 回	事例： 北部アフリカ
第 16 回	定期試験
授業時間外の 学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1 時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5 時間程度)
履修条件 受講のルール	なし
テキスト	なし
参考文献・資料	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
成績評価の方法	【レポート・小テスト(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日、木曜日 14 時～15 時
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実 務を活かした授 業内容	国際連合のマクロ経済専門家として、マラウィ国に 4 年間駐在して、同国政府経済企画部で勤務。
学生への メッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。アフリカの経済、開発、援助の理解は、今後の世界を見る上で役立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんがアフリカをより身近に捉えられるようになると考えます。